平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	11	―	22

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	各学校給排水改修事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		教育総務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	髙橋健仁		氏名	安井雅憲
事業の概要	各学校の老朽化に伴う給排水管等の腐食等の状況確認及び改善方法の調査を行い、計画的に改修を行う。					

全体計画	/期間限定複数年度	
（平成 22 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	千円
	事業費計	千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　）
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 C

事業の位置付け			
政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	
基本施策	12	学校教育の充実	
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画・根拠等			

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	千円	千円
合計	千円	千円	千円	千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	学校施設	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	各校とも年数の経過により給排水管の腐食等が進んでおり、一部では漏水も生じていることから、全面的な改修を要する時期となっている。	状況確認実施小中学校数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	漏水等、リスクの少ない給排水環境の改善を図る。	① 小中学校数	目標年度	平成22年度
			目標値	6 校
			実績値	6 校
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	今後も継続して施設を活用できるように設備の延命化を図る。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
状況確認等	次年度の改修計画策定に向けて、各校の状況確認を行った。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	適正な改修を行うための状況確認・把握を要する。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	次年度の改修計画に向けた状況把握ができている。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	予算支出を伴わず、特段の費用をかけず調査を実施した。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	等しく全ての学校の状況調査を実施している。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
次年度の改修計画策定に向けた状況確認ができ、計画どおり事業を進めた。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
状況確認結果に基づき改修計画、さらには改修工事を行い、施設及び設備の延命化を図っていく必要がある。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）